

こども大綱策定にむけて ガールスカウトからの提言

2023年1月27日（金）こどもまんなかフォーラム

公益社団法人ガールスカウト日本連盟

会長 和田 照子



こども基本法の概要より

[目的]

日本国憲法及び児童の権利に関する条約の精神にのっとり、次代の社会を担う全てのこどもが、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、こどもの心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、その権利の擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指して、こども施策を総合的に推進する。

[基本理念]

- ①全てのこどもについて、個人として尊重されること・基本的人権が保障されること・差別的取扱いを受けないようにすること
- ②全てのこどもについて、適切に養育されること・生活を保障されること・愛され保護されること等の福祉に係る権利が等しく保障されるとともに、教育基本法の精神にのっとり教育を受ける機会が等しく与えられること
- ③全てのこどもについて、年齢及び発達に応じて、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会・多様な社会的活動に参画する機会が確保されること
- ④全てのこどもについて、年齢及び発達に応じて、意見の尊重、最善の利益が優先して考慮されること
- ⑤こどもの養育は家庭を基本として行われ、父母その他の保護者が第一義的責任を有するとの認識の下、十分な養育の支援・家庭での養育が困難なこどもの養育環境の確保
- ⑥家庭や子育てに夢を持ち、子育てに伴う喜びを実感できる社会環境の整備

ガールスカウトは

少女・女性が

自分と他の人の幸福と平和のために
世界的視野をもって
自ら考え行動できる人になることを支援

自分の意見を言える人
自分で選択できる人

そのために

多様な体験の機会と
「やりたい」を支援

部門と育成目標

テンダーフット 就学前1年

<育成目標> 豊かな感性をもつ

家族以外のさまざまな年代の人とともに活動します。
自然のなかで五感を使った体験を楽しみ、感性をはぐくみます。



ブラウニー 小学1-3年

<育成目標> 自分を表現する

友だちとともに今までより少し難しいことや新しいことを体験して、「自分にできること」を増やしていきます。



部門と育成目標



ジュニア 小学4-6年

<育成目標> 仲間と協力する

集団で活動することから、仲間と協力することの楽しさや大切さを学び、思いやりの心をはぐくんでいきます。

シニア 中学生

<育成目標> 体験を通して自分を見いだす

自分で考え、目標をたて、それに向かって努力する過程を大切に積み重ねていきます。



部門と育成目標



レンジャー 高校生年代

<育成目標> 責任ある立場で自分を生かす

自分が身につけたことを他の人に役立てられるよう、ガールスカウトの仲間や地域の人とともに活動します。一人の世界市民として自ら考え、行動していきます。

成人 18歳以上

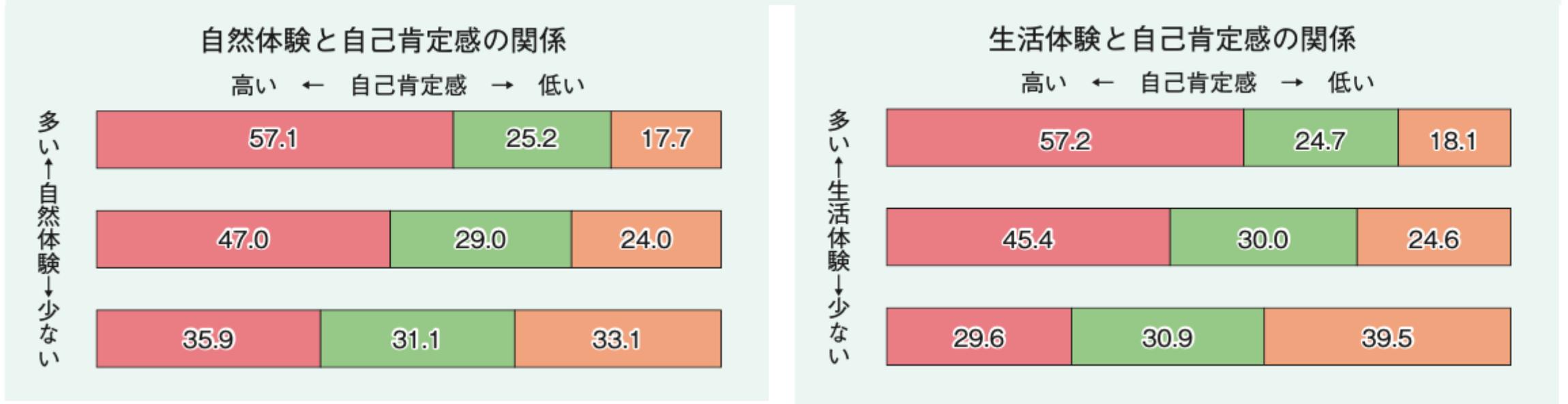
<活動目標> 創造的な生き方を目指す

少女たちの育成だけでなく、新しい自分への挑戦、よりよい未来をつくるための活動をします。日々、成長する少女たちを叱咤激励しながら、自らも多様な価値観（異年齢・職業・地域・国籍）の女性たちの中に身をおくことで、視野を広げ、考えを深め、気づきを増やし、新たな可能性を見出していきます。



豊かな体験活動は自己肯定感を高める

図表 1-2-1 子供の体験活動と意識の関係



(出典) 国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する実態調査（平成26年調査）」（平成28年5月）
※本調査の対象者は、小学4年生～6年生、中学2年生、高校2年生である。

ガールスカウトの事例

プロジェクト名

世界の海をClean に

プロジェクト内容

インド洋モーリシャス沖で日本の貨物船が座礁し、大量の重油が流出した事故を知り、髪の毛で油を回収するためにヘアドネーションプロジェクトを立ち上げた。地域の美容院23店から理解と協力を得た。

プロジェクト名

防護服プロジェクト

プロジェクト内容

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、医療従事者は医療物資の不足状態の中で戦い続けているという現状から、PCR検査をおこなう際に着用する「防護服」を作り、多くの人の協力を得て医療機関に届けた。

主体的に自ら必要と思う活動をおこない、他団に協力を依頼したり、受け入れ先の交渉をしたりする中で、さらに課題を発見し、工夫を重ねて活動を広めた。

また医療機関からも感謝され、評価を得た。

プロジェクト名

for our future ~ジェンダーバイアスのない社会へ

プロジェクト内容

2019年に日本連盟が主催した院内集会に参加したことをきっかけに、ジェンダーとワークライフバランスについて学び、クオータ制導入とワークライフバランス充実化により、多くの女性が社会に進出し、社会の変化とともに性別分担意識に変化があらわれることを目的としたプロジェクトを企画した。現状を学んだ後活動に参加し、周囲や政府に働きかけることを目標とした。

ガールスカウトの事例

グループ名 パープルジュニア
プロジェクト名 「パープルリボン大作戦」
パープルリボンキャンペーン活動の意味を学び、同年代の小学生少女たちに伝えるためのメッセージカードとヘアピンを作成、ワークショップを開催し説明とともに手渡した。

グループ名 CHERISH!
プロジェクト名 「わたしとからだプロジェクト」
ガールスカウト会員の中高生を対象に、思春期の女性のからだのを知ること、性犯罪被害を予防するための啓発活動を実施した。

グループ名 ジェンダー意識高いteen
プロジェクト名 「見過ごしジェンダー問題ゼロプロジェクト」
ジェンダーについてオープンに話せる環境で自分の意思を主張できる社会になることを目標に取り組んだ。活動をはじめるときっかけは、ジェンダーに関わる問題が身近にあるのにも関わらず、それに気付かない現状に違和感を持ち、動画付きアンケートと動画を作成。動画はジェンダー平等に関する問題を全く知らない人に向けて作成し、メンバーの通う学校でアンケートを実施。約84%の人が動画とアンケートを通してジェンダー平等に関する意識が高まったと回答した。

子どもたちの

意見を表明する機会・多様な社会的活動に参画する機会 が確保されるために

意見表明を可能にする学び・教育

- 社会の当事者であるということを理解する
- 社会は変えることができるものだとの認識を持つ（プロセスを示す）
- 疑問に思ったことなど意見を表明してよいということを知る
- 意見の表明の仕方を学ぶ

安心して意見表明・発信ができる場の確保

安心して意見を発信できる場づくり

発した声、意見に耳を傾けてもらえる（という安心感）

安心して意見を言える環境、仕組みづくり

安心して意見を言える社会づくり

一番大切にしてほしいこと

自ら考え行動する

というさまざまな体験

